

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0673200341		
法人名	株式会社 MSC		
事業所名	グループホーム燦燦		
所在地	山形県飽海郡遊佐町遊佐南大坪12番地1		
自己評価作成日	令和6年 6月 12日	開設年月日	平成27年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ5類となり、少しづつではありますが、感染予防に気を付け行事に地域の方々やご家族が参加出来る機会を設けております。
地域の婦人会や中学生ボランティアの受け入れは出来ていませんが、地域の文化祭への作品の出展や婦人会の方々より雑巾の寄付があります。家族の面会時や会話を楽しまれる機会を大切にしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和6年 7月 23日	評価結果決定日	令和 6年 8月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症対応共同生活なので、認知症を理解してケアにあたり、職員間の情報共有に努めています。外部研修に参加し内部研修にて統一したケアが出来るようにしています		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前では夏祭りや行事へ地域の方々が来てくれ、地域の行事に積極的に参加してくれました。5類後は、状況を見ながら少しずつではありますが地域の方々やご家族様との交流をしています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ予防の為、中学生の職場体験は受け入れていません。毎年のキャラバンメイト研修へは参加しております		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、行政、地域包括センター、地区長、民生委員(家族代表)の参加にて開催し事業所の状況報告や課題について話し合っています		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密にするように心掛けております。困難事例については、町や地域包括支援センターへ相談しております。日頃から相談、協力が得られる関係となっております		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部研修では、身体拘束指針について学んでいます。利用者の状況を考慮し玄関に施錠をしない工夫や取り組みを行っております。眠りスキャンや足元センサーを利用している方は記録に残してご家族にも報告しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加して、施設での内部研修にて職員間での情報共有や統一したケアに努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や地域包括支援センター、ご家族や本人と話し合い必要であれば提案させて頂き、活用できる様に支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に担当ケアマネを通して施設の内容や料金について話し合っています。 契約や解約時に変更があった場合は、文書をもとに説明し理解・協力を得ています。施設見学も行ってます		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者の希望や意向を聞き、日常生活や行事等へ反映させるよう努力しています。年に一度、ご家族様へ施設に対するアンケートも実施しています		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の申し送りなどで意見や提案を聞き反映させています		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状態をみたり職員会議へ出席、研修や行事の報告等により、状況や実績を把握しています。年に1回以上の個人面談を設け、日々聞けない意見や要望を聞き職場の環境や条件の設備に努めています		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実績と力量を把握したうえで、研修を選び参加してもらっています。研修に参加した職員は、職員会議で講師役となり、内部研修を実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し研修会にも参加しています。コロナ前は交換実習等にも積極的に参加していました。同業者との情報交換をしネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。地域の多職種連携研修会へ参加し情報交換も行っていきます		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面談を行い身体状況や生活状況、困っている事や要望などについて聞き、安心して生活が出来るように関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、どのような暮らしをして欲しいかなどの意見や要望を聴き取り、ご家族の立場を理解しながら把握に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご本人とご家族が必要としている事を見極めて、サービスや対応に努めています		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者と信頼関係を築きながら掃除や洗濯物干し、衣類たたみなど、経験してきたことを活かしてもらえよう環境を整えています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族が一番近い存在となるよう、日々の生活の様子や行事の事などを手紙や広報、電話、面会時に伝えていきます (状況みて面会を中止にすることもあります)		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見や新緑の時期には行事にて密を避けドライブを楽しみ、馴染みの場所を見て楽しめました。町の広報や出来事を会話の中で伝えていきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、利用者同士のかかわりを深めております。孤立する事が無いように職員が仲介役となり、交流が図れるように努めております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養、入所申請の際には更新時、意見を提出しています。契約が終了した場合でもご本人やご家族の相談に応じて相談を行う事もあります		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を傾聴し、意向の把握に努めています。センター方式を使いアセスメントを行っています。困難事例は申し送りや会議等で意見交換し職員間での情報共有に努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や毎日の生活の中で、生活歴や馴染みの暮らしや環境等について、ご本人やご家族等に聞き、把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、生活の様子を記録に残し、特記事項は申し送りノートやユニットノートに記入し、カンファレンスを行い職場全体でノートの状態把握に努めています		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、申し送りや会議等で課題と支援の行い方について話し合い、意見を反映し、介護計画を作成しています		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート、ユニットノートに記録し、情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や現状に必要なと思われる支援やサービスを申し送りや職員会議などで話し合い、一人一人が自立した生活が出来るように取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で、交流を図りながら過ごせるように支援していきます。行きつけの美容院へ行ったり期日前投票に行き、密を避けながら対応しています		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医に引き続き受診が出来るようにしています。受診時は主治医に情報提供を行い、通院が困難な方は協力医などの往診で対応しています		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者の健康管理に努め申し送り等で、情報や気づきを看護師に報告、相談して適切な対応を受け入れるように支援しています		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院側との情報交換をしています。退院時は病医院側と情報共有やサマリーを確認しスムーズに生活が出来るように医療機関との関係作りを行っています		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書をもとに説明し、同意を得ています。重度化した場合は医療関係者や家族と話し合い、方針を共有し、対応しています（当事業所は看取りは行っていません）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は消防署より講師を呼んで救急救命講習を実施していましたが、コロナ禍になってからは密を避けるために実施出来ておりません		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難できる方法を全職員が身に付けています。デイサービスや近隣とも協力体制を整えています。消防の指導もその際に受けています。防災頭巾や食料、水、トイレなどの備蓄も行っています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴を踏まえ、自尊心を傷つけない対応を心掛けております。利用者に対しての接し方については、申し送りや職員会議で話し合い、必要時は個別指導も行っています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心して生活が送れるように一人一人と向き合い、自己決定できる雰囲気づくりに努めています。 例) 誕生会のメニュー等も本人が食べたい物を取り入れています		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合を優先せず、利用者一人一人の状態を見て、出来るだけ希望に添えるように、自分のペースで過ごせるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るような雰囲気づくりに努め支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物や旬の食べ物、郷土料理などを提供しています。献立作成は職員がローテーションで行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に合わせた食事形態で栄養バランスを考えて提供しています。1日の水分量、食事の摂取量も記載し把握しています		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つようにはしています。必要な方には介助し、口腔の状態もチェックしています		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い自立に向けた支援を行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトや水分補給時に牛乳を提供したりし、水分量をチェックしています。レクリエーションでは軽体操を行い、適度な運動を心掛けています		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて、週2～3回の入浴を実施しています。一般浴と機械浴があり、ADLの状態にあった対応で安全に入浴しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごせるような環境となっています。週1回はシーツや布団カバーなどを交換し常に清潔を保つようにはしています。居室内の温度や湿度にも気を付け快適に過ごせるように支援しています		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更時には処方箋を確認し、体調等の観察をしっかりと行っています。向精神薬処方時は申し送りや会議を通し情報共有しています。誤薬が無いように、職員が二人でチェックしてから確実に服薬して頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、その方に合った役割や楽しみごとを提供しています。役割を持つことで自信や生きがいを感じられるように支援しています		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類後も、感染症予防に努め外出支援を行っています。ドライブや散歩等で外出の機会を設け気分転換を図っています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側でのお金の管理は行っていません。必要な物はご家族より持参してもらっています。遠方にご家族がいる方は、施設側で立て替え買い物支援行っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、利用者本人が自由に電話をかけたり、受けたりできるように支援しています。携帯電話を持っている利用者さんもいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は、ゆったりと落ち着きのある空間となっています。ソファでテレビを観たり、横になったりと居心地よく過ごせてます。季節ごとに装飾も変えるようにしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好む場所でゆったりと過ごされています。各ユニットへ行き来出来るようになっており、気の合う同士でのおしゃべりを楽しんでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、自宅で使い慣れた物を部屋に飾っていた物などを持って来てもらい、安心して過ごせるように工夫しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内バリアフリーとなっており、車椅子の方でも安全に過ごせるようになってます。浴室にも手すりが多く設置され安心して入浴が出来るようになってます		